

文武不岐

読み「ぶんぶふき」

読み下し「文と武 岐（か）れず」

膳所高等学校

膳所高等学校の部旗には「文武不岐」の言葉が書かれています。田島誠先生が膳所高校に赴任され、生徒に「学業にも剣道にもしっかり励むように」という願いをこめて当時膳所高校で書道を教えておられた北川邦之先生に揮毫してもらわれたものと聞いています。水戸藩第9代藩主徳川斉昭公は北辰一刀流の千葉周作を水戸に招くなど武芸を奨励していましたが、天保12年（1841）に藩校「弘道館」を設立しました。それに先立つ天保9年（1838）弘道館の教育方針を示した「弘道館記」が藤田東湖により起草されていますがその中に「忠孝無二 文武不岐」という言葉が出てきます。弘道館では、武道のほか、人文科学・社会科学・自然科学など幅広い分野の学問も行われ、後世の総合大学の様相を示し、文武両道の教育が行われていたようです。

藩校といえば、膳所高校の前身滋賀県第二尋常中学校が明治31年に膳所藩の藩校「遵義堂」の跡地に開校しています。文化5年（1808）に膳所藩第10代本多康完公が設立した遵義堂に幕末に学び、明治・大正時代の思想界をリードした杉浦重剛が生まれています。

膳所高校では、藩校の精神を引き継ぐべく「遵義・力行」を校訓としています。

「遵義」とは〈中庸〉という中国の古典に登場する言葉で、「正しい道にしたがう」という意味ですが、そのためには「文」を極め、何が正しい道かを知らねばなりません。

「力行」も〈中庸〉に出てくる言葉で「実践努力する」という意味で「武」の奨励に通じる言葉だと解釈します。

このような校訓や剣道部の部旗の言葉などに励まされ、剣道部の生徒たちは剣道にも学業にも励み、社会において実践力のある人材となるよう努めているのだと思います。

「文武一徳」について

近江の生んだ我が国陽明学の開祖中江藤樹先生の言葉に「文武一徳」という言葉があります。藤樹先生は翁問答という著書の中で「文は仁道の異名、武は義道の異名なり。仁と義は同じく人性の一徳なるによって、文と武も同じく一徳にて各別なるものにあらず」と述べています。「文は仁（思いやり）の道の別名であり、武は義（正しい心）の道の別名である。仁と義が人間に備わった一つの徳であるので文と武も一つの徳である。」という意味です。つまり「文と武は別物ではない」ということで「文武不岐＝文と武はわかれぬ」と同じ意味なのです。

滋賀県で剣道を学ぶ者として藤樹先生のこの言葉も胆に銘じておきたいものです。